

平成9年4月30日現在

山路 YAMAJI

世帯数 305戸
人口 1,070人

御祭神

- ・主祭神 天常立命
菅原道真公
- ・配祀神 天穗日命
岩船大明神
- ・合祀神 応神天皇（八幡大神）

上山神社の由緒について

いま私たちが鎮守の神様として尊崇する上山神社は、現在保存されている古文書によれば、天慶4年(941)の創建で、1000年を越える歴史を有する神社です。往古より五穀豊穰の神として敬られ、また佐々木氏の居城観音寺城の北表の守りとして崇敬厚く、八ヶ郷(山路・伊庭・小川・躰光寺・垣見・佐野・猪子・林)を氏子とする惣社でありました。かつて菅原道真公が勅使として敦賀の国の気比神社にご参向の節、上山神社にご参拝になったので、その尊霊をお祀りし、さらにお旅所にあった八幡堂のご神霊(第16代応神天皇)を合祀されたと伝えられています。応神天皇は本地垂迹によれば八幡大菩薩で、弓矢の神様と言われ、とくに武将の帰依が厚かったとのことです。

社名はその昔、若宮天神・上山天神・大宮と称し、明治の始めに上山神社と改称されました。社殿は元亀2年(1571)兵火により焼失し、同時に地頭職山路右馬亮の山路城も焼失し、その面影をとどめるものとして小字「城」「城西」「城前橋」などが残っています。社殿はその後、文政元年(1818)に再建され今日に至っています。社室には、大般若波羅蜜多經、懸仏などがあり、文化財に指定されて後世に伝えるため大切に保管されています。

20世紀も終わりに近く、人心は荒廃し、国を憂うこと切なる時代となりましたが、古代から未来につながる上山神社の由緒を伝承し、未永く村人が上山神社を崇敬し心豊かな精神生活を送る糧とすることを願うしだいです。



山路の遠景



春季祭典の宵宮

平成9年4月30日現在

躰光寺 TAIKOJI

世帯数 365戸
人口 1,303人

私たちの行政区は、能登川町のほぼ中央に位置し、町役場や教育文化交流の場としてのやわらぎホール、勤労者会館等が存在しています。また、西郡神社、国領子安地藏尊、能登川町の有形文化財に指定された弘誓寺表門が点在し、東西に小川が流れる水と緑の豊かなところです。

区民相互の親睦を図るため、区民運動会、バレーボール大会、三世交流のグランドゴルフ大会などのスポーツ大会、そして昔から続いている西郡神社の大祭などを行っています。また、総出で行われる環境作業等を通して、明るく住み良い躰光寺作りを目指しています。

紹介します - 国領子安地藏尊の由来

1本の太木から3体の地蔵が刻まれました。その各々に彩色が施され、その中の1体がこの地に祀られています。安産の祈願や母乳を授かるように、いまでも、区民の信仰の対象として息づいています。



西郡神社



弘誓寺表門



国領子安地藏尊

平成9年4月30日現在

小川 OGAWA

世帯数 176戸
人口 700人

弥生時代から栄えていた弥栄の小川

小川（宮の前）遺跡

約2000年前の弥生時代中期から後期にかけて、すでに人々が住み着き、農耕や狩猟・漁撈の生活を営んでいたことが判明しました（昭和54年〈1979〉発掘調査）。弥生中期の方形周溝墓や人工の溝が発見されており、木棺の中から若者の骨や歯が、さらに祝い櫛・瓶・壺なども出てきました。また倉庫跡、装飾品、および高杯・土師器などの土器なども発見され、この時期すでに集団で稲作中心の農業が行われていたことも確認されています。

室町中期の墓股・木鼻

八宮赤山神社の祭神は宇多天皇の皇子敦実親王（近江源氏の佐々木氏の祖）です。

神社の建立の年月ははっきりしませんが、本殿正面

の向拝の欄間にある墓股や左右の木鼻は、室町時代中期の作とされています。数度の改築の際も、一部補修はされたものの、原形をとどめ現在にいたっています。平成4年（1992）と5年の修復工事においても慎重な取扱いにより、工事が進められました。

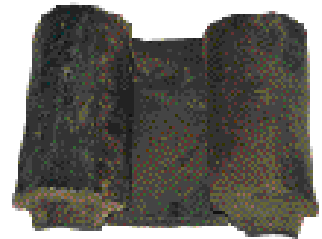
小川土佐守祐忠の小川城

元龜2年（1571）9月1日、織田信長の軍勢が湖東へ攻めてきて、時の小川城主小川土佐守祐忠に対し、城の明渡しを迫りました。祐忠は7人の人質を出して降参し、赦免されました。このため村は焼け払われず、ほかに犠牲者を出すこともなく救われたのです。

祐忠は後日信長、秀吉に仕え、伊予国（愛媛県）の城主にもなりましたが、関ヶ原合戦（1600）では西軍（豊臣軍）の武将として2000人の兵を従えて参軍しています。集落東部の小高い丘に小川城址があります。そこはいまも城の瓦が出土し、往年の城址と伝え、「城の内町」の名を残しています。



弥生式土器（小川・宮の前遺跡）



城址から発掘された城の瓦



向拝所 墓股（八宮赤山神社本殿）



小川城址

平成9年4月30日現在

川南 KAWAMINAMI

世帯数 74戸
人口 323人

わがまち川南宇佐神社の今昔

毎年、春と秋に行われている宇佐神社の大祭と、私たちの字について紹介します。

この祭りは、かつては「栗見十郷の川原祭り」と称され、愛知川をはさみ、能登川町側は、川南、福堂、乙女浜、新宮東、新宮西、阿弥陀堂、彦根市側は本庄、田附、三ツ谷、新海の10カ村の6社が栗見大宮天神社前に集う合同の大祭で、盛大を極めるものでした。この栗見大宮天神社は社記によれば、長徳3年(997)に現在の地(新宮西)に遷宮されたとありますので、約1000年の歴史があります。また文献によれば、大宮天神社前における6社の神輿の配置も決められていたことがうかがわれます。その後、幾度かの遷宮をへて昭和30年(1955)頃の秋祭りを最後に、この形による栗見川原祭りは途絶え、現在では、毎年の春秋の祭礼前に、旧栗見十郷の自治会長が集まって、祭礼の期日を決めるだけとなっています。

こうした中であっても、川南の氏神である宇佐神社の宵宮に奉ぜられる太々神楽の囃子となる、太鼓、笛、羯鼓、拍子木、擦がねは、氏子の若中と呼ばれる若衆により奏でられます。また、これらの楽器の奏では、いずれも若中の連中という組織により今日まで脈々として受け継がれており、伝承文化そのものです。ある時はこうした伝承の場は、人間形成の場となり、またコミュニケーションの場でもあり、心のかよい合う町づくりの一つでもあるのです。

私たちはいま、長い歴史の中で、幾世代もの間、先人たちにより伝えられた祭りという文化の重みを改めて感じるとともに、次の世代へのよき財産として伝承したいものです。



宇佐神社春祭の御渡



宇佐神社春祭の宵宮における太々神楽

平成9年4月30日現在

阿弥陀堂 AMIDADO

世帯数 52戸
人口 190人

伝統が息づく阿弥陀堂

大仏様の村

当字は、愛知川の下流近く緑の多い、静かな農村地帯です。

私たちの村は、立派な木造阿弥陀如来坐像を本尊とした仏閣を有し、村民の信仰の中心としてお守りしています。

『近江輿地誌略』には「此村里八、志村ノ北東ニアル里ニテ、愛知川ノ端ナリ、往古此所八、大伽藍地ニテ、阿弥陀佛ノ堂有ノ地ナリ。依之、村号トス。山門繁昌ノ時分八、山法師、竹中妙貫院、竹中築後守等居城。則古城ノ跡在リ」(中略)「佛閣、此堂有ヲ以テ村号トス。」と結んでいます。

仏閣としての伝承

親縁山光照寺は天台の大坊でした。しかし、寿永元年(1182)と元亀元年(1570)の2度の兵火に焼失し、本尊のみを残しました。「本尊 阿弥陀佛を兵火より守る為に、堂が池に沈めて焼失をまぬかれ、七十有余年を経て、池中より光明を放つ不思議により、此池を掘るに大佛様の出現を見る。当時、大洲村であった字名を阿弥陀堂と改称する。」

とあり、この地に仏閣を創建しました。

『光照寺縁起奉加帳序』によると、「神崎郡、栗見庄阿弥陀堂、光照寺は、行基菩薩の創造なり。本尊は、即ち西方極楽の教主、阿弥陀如来也、行基菩薩の作也。然れば年代久遠而して、其の縁起を知らず唯、人口の伝説する所。所舌往者は、佛閣嚴飾にして彩画地を照し、尊容巍々として、光明天に輝く、僧房美麗、百字軒を並べ、佛法弘通の繁昌の靈地なり。」とあります。

昭和48年(1973)9月23日、本坐像是有形文化財として能登川町の指定を受けています。

村民、久しく本尊を大切に、心の依りどころといたしたいと念じています。



阿弥陀如来坐像
親縁山光照寺

